

あびの文

発行人 吉彌 藤井
我孫子市寿 2-21-23
04(7185)
1996

あけましておめでとうございます

会長 藤井 吉彌

昨年は世界的な経済の不況感、政治の混乱もあり我が国全体が閉塞感にさいなまれる年でした。そうした中で国や県、手賀沼を囲む周辺の三市が手賀沼、手賀川やその周辺の豊かな水や緑を活用したまちづくりを推進する協議会を発足させ動き出したことは我孫子市民としてはうれしいことでした。時を同じくして手賀沼を景観資源として着目し、その保護に力を注いだ杉村楚人冠の旧居が公園及び展示施設としてオープンしたことも、我孫子市の文化的資産形成という意味で白樺文学館と共に画期的なことでした。

当会も文化講演会で楚人冠研究者の小林康達氏にお願いし「楚人冠の景観保護思想」と題して手賀沼の景観保護運動の原点、実際の活動内容などをお話頂きました。また史跡文学散歩では楚人冠に因む各所を廻り、多くの方が参加されました。

一昨年からは始まった血脇守之助と其の師杉山英先生を廻る師弟の麗しい交流の紹介も「我孫子市民フェスタ」や「放談くらぶ」で積極的にを行い、市民にほとんど知られていなかった我孫子の先人の優れた業績を市民に広めることが出来ました。

我孫子市教育委員会が小中学校の副読本として編纂した「ふるさと我孫子の先人たち」と題する冊子に、松岡鼎からはじまり山下清までの十八人が取り上げられています。素晴らしい地元の先人の業績を子供たちに教えることは素晴らしいことだと思います。

平成二十年から始めたプロジェクト活動も今年も一歩踏み込んで「文化という定義に入る全ての活動」を会員の皆さんのやりたい活動に絞り込んで多くの会員が参加できる内容にしていきたいと思えます。

プロジェクト報告会&懇親会を実施
十月二十八日、我孫子北近隣センター並木本館で今年度のプロジェクト報告会を実施・開催した。当日は各プロジェクト担当から内容の説明、進捗などの報告の後、同じ会場で懇親会を開催。全会員が自己紹介の後、近況などを述べ合い普段顔を合わせない会員同士の親睦を深めた。

「我孫子市民フェスタ2012」に出展

昨年末の十二月一日(土)・二日(日)の両日、市の市民活動サポート委員会主催の「我孫子市民フェスタ」が生涯学習センター(アビスタ)と手賀沼公園で開催された。一昨年までの十年間「市民活動フェア・あびの」の名称で親しまれてきたが、昨年からは「我孫子市民フェスタ」と名称が生まれ変わったもの。今回は、成田市出身でモノマネ芸人の「ゆうたろう」さんが特別ゲストとして登場したほか、他に千葉県物産展やスタンプラリーなど楽しいイベントが盛りだくさんであった。

アビスタ内では六十を超える団体によるパネル展示や各種企画が行われた。また今回は我孫子市の近隣の東葛五市との共同企画も行われ、つながりと広がりを感じられた。

当会としては美崎副会長が窓口となり、文化分科会の一員として参画し、「杉山先生を顕彰する」プロジェクトメンバーが中心となつて「明治初期の我孫子小学校に見る師弟愛」と題してアビスタ二階のフリースペースで展示を行った。これは、

明治初期に開校された我孫子小学校の初代教員・杉山英先生の愛情あふれる教育業績を顕彰する運動を現在展開中



であることから、一般市民にも広くPRし、杉山先生と教え子たちの心温まる師弟愛物語の感動の輪を、わが街・我孫子に甦らせたいとの熱い思いを抱いて参加したものである。

両日とも、熱心な一般市民の方々が当会の展示に見入つて、プロジェクトメンバーの説明に傾いたり、鋭い質問をされるなかで、杉山先生の教育業績を顕彰するために取り組んでいる当会の活動に共感・賛同する人が多く、心強く感じられた。当会の展示に訪れた一般市民は、初日が約五十人、二日目が約六十人であった。

なお、両日の午後、フリースペースで行われた文化分科会共同企画のミニセミナーに伊藤福会長が同じテーマで出講した。(写真は当会の展示の説明を聴く星野市長)

追悼 宮本瑛夫氏

宮本瑛夫様 ご逝去

三谷 和夫
本会元副会長の宮本瑛夫様が逝去されました。ついでにご冥福をお祈り致します。

宮本さんは本会の古い会員です。昭和五十九年の第二回郷土美術展に出品のため入会されました。郷土美術展には、絵画、陶芸、書道などを中心に、巾ひろい分野で、優れた作風をもち、個展を開いたり、日展に出品するなどの、格調高い作品が展示されました。宮本さんは勿論、七宝作品を展示されたのでした。現在本会顧問の田崎末満氏も主導しながら絵画を出品され、十年間実施されて大変好評でした。宮本さんの七宝は、我孫子を代表する「ふるさと産品」にも指定されたのです。

本会の二十周年記念誌(平成十二年発行)には、「研究随想編」の中に、「古利根の森の中峠城(芝原城)址」と題して、宮本さんの報文が掲載されています。実は宮本さんは、教員資格があり、中学校の社会科教諭

として勤務されたことがあります。中峠城の現状を地図に描き、私もいただいたことがあります。中峠城を築城したといわれる河村出羽守勝融の出自についてわざわざ神奈川県足柄上郡山北町と連絡をとり、また資料を貰い、検討して報文にまとめ、原稿を提出されたのです。また二代河村山城守については湖北村の大先輩中野治房先生の著作「中峠城主の事蹟」を手され、これに基づいて記述されたのです。そしてこの中野治房著作は廻り廻って、現在、市の図書館にコピー製本され、一般の利用に供されています。

さて宮本さんは手賀沼担当の副会長でもありません。毎年五月、美しい手賀沼を愛する市民の連合会を中心に「エンジョイ手賀沼」が行われ、多数の来客で賑わいました。本会も宮本さんが中心となり、史跡文学散歩の写真、案内図や手賀沼短歌作品の短冊、そして宮本さんの七宝作品などを展示しました。宮本さんが自転車で作品を持参し、また持ち帰ったことが昨日のように思い出されます。宮本さんは本会を代表して美しい手賀沼連合会に出席され理事として活躍されました。毎年バスで関東各地の環境保護団体を見学する研修旅行にもいつも参加されました。

宮本さんは会長改選にあたり、役員会において第三代会長に推され、一旦は引き受けられたのですが、熟考の上、七宝づくり多忙の故に辞退され、宮本会長は実現しませんでした。

最後に、私事にわたり恐縮ですが、拙宅には宮本さんの七宝作品がいくつか残されています。玄関に、書齋に私は日々眺めています。宮本さん、色々有難うございました。

宮本瑛夫様、さようなら。

宮本さんと七宝

あるときはやうやく仕上げし七宝もて駆けつけたりき手賀沼展に

七宝の注文をとり電気炉に向かひあし君知る友も

亡し

すぐれたる七宝の技伝ふるなくひとり保ちて君は
逝きしか

宮本さんを偲ぶ

越岡 禮子

十月中旬頃、「宮本さんが亡くなったそうさ。墓参りに行きませんか？」と藤井会長から電話があった。本当に驚いた。

昨春、入院をしていた宮本さんを見舞った時、とてもお元気で見舞い品にズックが欲しいと言われていたと聞き、同行した村上さんとズックを買う足しにしてねと、心ばかりの見舞としてきたのだ。そのズックを履いて、文化を守る会の役員会や行事に参加して下さることを信じていたのに、その姿を見ることは叶わなかった。

宮本さんは三谷前会長とともに、我孫子の文化を守る会創立時早い時期からの会員で、入会依頼以来二十八年間、役員を務めて下さった。会の古参として何かと貴重な意見を出していただき心強かった。穏やかな人柄と朴訥な口調が印象に残っているが、宮本さんから戴く資料や年賀状は意外にも大ぶりな力強い文字で、私はいつも優しげな雰囲気を持つ宮本さんの芯の強さをその文字に感じていた。

ふた昔ほど前、中野治房先生がまとめられた私家版「中峠城主の事蹟」の原本を中野家から借りて宮本さんが全コピーされた時、私の分までコピーして下さった。その後、貴重な原本も市内の郷土史家が所有していたコピーも行方不明になっているそうさ。幸い私が持っていたものを三谷前会長がコピーして、現在アビスタの中にある図書館に収められている。これも宮本さんの隠れた功績のひとつであると思う。

永い間ご交誼をいただいた宮本さん、どうぞ安らかに眠りください。 合掌。

関東の建築巡り(第十四回)

「奥羽、日光街道の宿場町古河」を訪ねる

佐々木 侑

平成二十四年十一月十六日「関東の建築巡りのプロジェクト」は、奥羽・日光街道の宿場町「古河」を訪ねた。

参加人数は五名。晩秋の頃、この2〜3日前からの冷え込みに天候を心配しつつ我孫子駅に集合したが、10時ごろに古河駅に到着したころには澄み切った青空で小春日和の暖かきに見舞われていた。

駅前で古河観光ガイドの岡田さんと合流し、関東三大「蔵の街」古河の歴史的建造物巡りを開始した。ちなみに、日本三大「蔵の街」は喜多方・川越・倉敷、異論があるが関東三大「蔵の街」は栃木・古河・佐原だそうである。

まず駅前の万葉集石碑に刻まれた歌について、古河の宿場が歴史ある町であるとの説明があった。

「逢わずして 行かば惜しけむ
まくらがの 許我ご船に 君
も逢わぬかも」(あなたに逢わずに行ってしまうのは心苦しい、こがを漕ぐ舟であなたにお逢いできないものか、もう一度逢いたい)



古河宿は江戸から9番目の宿

場町で栃木からの巴波川、小山からの思川、足尾からの渡良瀬川の3本の川が利根川に集まり水運物流運搬の中心地として発展した。したがって室町時代の古河公方支配下の権勢から続いて、徳川幕府においても東国における重要軍事拠点となった。街道は日光道中(宇都宮までは奥州道中と同じ)の9番目の宿場で経済上も軍事上も重要な地域であるため、幕府は最も信頼のおける譜代の大名11家をつぎつぎと古河城城主(藩主)に任じた。幕閣の元老、老中、若年寄、京都所司代の登竜門とも云える人事異動を行った。残念なこと古河城は明治六年(1873)取り壊され、その後の治水工事で城跡は壊滅しているが、宿場町の江戸の街並み、武家屋敷・神社仏閣建造物に歴史とその面影が多数残っていた。

*最初に蔵の街らしく蔵の辻での蔵見学、昨年の震災

の激しさが覗える被害で修復中。

***武蔵屋**・・・よこまち柳通りの両脇に遊郭があつたそうだが現存するのは、鰻屋に店替えした武蔵屋のみ。派手な色付け壁・格子窓・色ガラス窓を期待したがその面影なし。



500円)

***永井路子旧宅**・・・直木賞作家である永井路子が3歳から24歳まで過ごした家、土蔵造りの店蔵と住居を再現している。



***杉並通りの武家屋敷**・・・広大な上級武士(殿と呼ぶ、四〇〇石以上)の屋敷と門塀に面影あり。



***篆刻美術館**・・・日本で初めての篆刻専門の美術館。建物は大正九年(1920)に建てられた石蔵を改修したもので国登録有形文化財。



***正定寺**・・・古河藩主土井利勝の開いた寺で、土井家累代の墓所。黒門(葉医門、本郷の土井家下屋敷から移設)、赤門(本堂の楼門、謎の数式:2の?乗マイナス2||0:先祖の人数、二代前は2の3乗||8マイナス2||6人)、本堂(「雪華図説」著の土井利位が1832年再建)、四代將軍家綱の母・お楽の方の慰霊碑、などあり。

***古河文学館**・・・平成十年(1998)会館、茨城県初の文学館で古河ゆかりの作家の作品などを展示している。木組形式が特徴的な大正ロマンの漂う洋館。



***鷹見泉石記念館**・・・鷹見泉石は土井家(土井利位)の家老であり洋学者でもある。石高は五〇〇石、「土井の鷹見か、鷹見の土井か」とまで評された秀逸の人材であった。晩年はこの屋敷(下



写真)に隠居居住した。記念館は寛永十年(1633)に城主土井利勝が古河藩の藩土用官舎(武家屋敷として建てたものと伝えられている。

***奥原清湖画室**・・・明治時代を代表する女流南画家・奥原清湖の画室。埼玉県熊谷に在ったものを昭和四年に移転した。



***福法寺山門・旧古河城乾門**・・・かつて古河城二の丸御殿の入口にあつた門であるが明治六年(1673)古河城取り壊しの時に払下げ移築した。平唐門と云う形式で両側に袖塀、右に潜り戸がある。古河城の姿を伝える数少ない遺構として貴重なものである。



***お休み処・坂長**・・・旧古河城下の代表的商家(酒問屋)の屋敷構えて店蔵・石蔵・袖蔵・文庫蔵などが修復されている。国登録有形文化財である。

***古河宿本陣跡・高札場跡**・・・それらしき場所に石碑や説明版があるのみで跡地である。

14時20分頃、古河駅でガイドさんと別れ、40分頃の電車で帰路。

古河の宿場街並みと蔵造りの歴史的建造物に触れ合った一日であったが、余りにも古河と云う地域について知らないことが多く、筆者が浅学であることを反省した一日でもあった。この有意義な機会を作ってくれた「建築巡りプロジェクト」のメンバーに感謝します。



***料亭和田家**・・・昼食(お弁当)・・・1500円、熱燗1合



第109回史跡文学散歩のお知らせ

「楚人冠が親しんだ」利根運河」周辺を歩く」

明治23年、利根川と江戸川を結ぶ運河が開通しました。今も開放的な空間と水運の昔を偲ぶことができる素晴らしい景観です。

楚人冠はここにある割烹「新川」に度々訪れたそうです。運河のほとりは四季折々の風情があり桜の名所でもあります。楚人冠もこの散策を楽しんだことでしょう。春の訪れが早ければ見事な桜を鑑賞することができるかも知れません。

1.日時 三月三十一日(日)9時～(小雨決行)

JR柏駅みどりの窓口前9時集合 正午頃現地解散

2.コース ムルデル(オランダ人土木技師、利根運河計画)碑―割烹「新川」(大町桂月など明治、大正時代の文豪たちが利用した料理屋)―窪田酒造(東葛飾地区唯一の造り酒屋)

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

参加費 会員 無料、非会員 500円

申し込み TEL&FAX (七二八四)二〇四七

越岡まで (締め切り) 3月23日(土)

今後の行事予定

□「放談くららび」

日時 2月2日(土) 14時～16時

会場 北近隣センター第3会議室

講師 高間 真氏

演題「我孫子のやきもの」

・やきものとは・粘土とは・我孫子の粘土採集(実物の見本と採集場所)・焼成見本・自分で使う器を作ってみる(当日、粘土約400gを無料でお分けます)

◎参加費 300円(会員無料)先着40名
申込み・問合せ先 田口(七二八三)四四三八

□プロジェクト開催予定

「歴史文化くららび」

日時 1月5日(土) 14時～16時

場所 けやきプラザ8階(我孫子駅南口2分)

話者 三谷和夫氏(本会前会長)

演題 「我孫子地名考(6)」

布施、中里、根戸、日秀の地名のおこり

参加費 200円(会員無料)先着20名

申込み・問合せ先 三谷(七二八三)一〇七七

「関東の建築探訪」

日時 1月14日(月)9時30分～11時30分

場所 北近隣センター

内容 「神社、寺院、合掌造りに見る日本建築の特徴」

(今回は座学)

□プロジェクト実施報告

「歴史文化くららび」

11月3日「我孫子地名考(5)」実施

「百人一首を楽しむ会」

11月23日「第34回」実施

「異文化を学ぶ会」

11月3日「世界255か国・地域を旅して」

講演 於中央学院大

「関東の建築探訪」

11月16日「第14回奥羽、日光街道の宿場町古河」(本文参照)

◎当会の最近の動き(報告、予定)

散歩部会

3月31日(日)第109回史跡文学散歩(本文)

手賀沼部会

10月8日(月)「川めぐりと木下の史跡散歩」

11月28日(水)美手連研修会(しろい環境塾)

12月2日(日)統一クリンディ(ふれあい清掃)

研修部会

12月2日(日)放談くららび「坂西志保」

次回役員会予定

日時 1月6日(日) 13時～15時

場所 北近隣センター(引続き同会場で新年会実施)

◎あびこ楽校協議会主催イベント

「あなたが裁判員!」

日時 2月16日(土) 10時～16時45分

場所 アビスタホール

内容 第1部 ルールって何だろう(対象小学生)

第2部 裁判員制度を身近に!

第3部 模擬裁判/あなたが裁判員!

申し込み あびこ楽校協議会事務局(生涯学習課)

電話 04(7185)1602 FAX(7182)5867

◎小泉武夫(東農大名賞教授/発酵学者)講演会
日時 1月24日(木) 13時30分～15時30分
場所 けやきプラザふれあいホール(開場13時)
内容 「農と食」先着500名

新年会のお知らせ

一般会員の方も参加できます。どうぞ!

日時 1月6日(日) 15時～17時

場所 北近隣センター並木本館 我孫子駅徒歩8分

会費 2000円

問い合わせ&申し込み

越岡(七二八四)二〇四七まで

今年度入会された方(五十音順、敬称略)

海老原直矢、小笹鏡江、海津いな、芹澤正子、

高平仁雄、津田好子、野口征紘、牧田宏恭、

村越邦雄、山本幸治、結城玲子

編集後記 今年の干支「巳」(み、し)という字は、胎児の形を

表した象形文字で、「起」る、始まる、定まるなどの意味が

あります。「巳」を動物にあてはめると「蛇」になり、蛇は信

仰の対象として豊穰神、天候神などとして崇められてきま

しました。また、蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想

させます。今年こそという期待を込めて、日本復活(美崎)